

8月9日、富山大学附属病院林篤志院長をはじめとする外部有識者6名の委員で構成される「改革プラン評価委員会」が保健福祉総合センターで開催され、平成30年度の実績状況を点検・評価しました。ここでは、その結果の概要をお知らせします。
なお、詳しくは病院ホームページ（http://www.kamichi-hosp.jp/）に掲載されていますので、ご覧ください。

◆達成状況の区分
A：目標以上 B：一定の実績（目標の8割以上） C：実績不足

財務に係る数値目標

主な数値目標	平成30年度			令和元年度
	計画値	実績値	達成状況	計画値
経常収支比率	99.0%	95.6%	B	99.6%
医業収支比率	92.0%	88.4%	B	92.0%
不良債権比率	0.0%	△0.3%	A	0.0%
病床利用率（一般）	81.8%	76.5%	B	82.9%
病床利用率（回復期）	80.0%	70.3%	B	80.0%
病床利用率（精神）	68.0%	68.5%	A	71.0%
患者1人1日当たり診療収入（入院）	3万4,492円	3万3,856円	B	3万4,625円
患者1人1日当たり診療収入（外来）	1万455円	1万526円	A	1万464円
医業収益対職員給与比率	63.1%	67.7%	B	62.6%
医業収益対薬剤費	11.0%	8.6%	A	10.8%
医業収益対診療材料費	5.8%	5.3%	A	5.7%
医業収益対委託費	11.7%	12.3%	B	11.7%

取組実績

- ・経常収支比率は、前年度（94.9%）と比較して0.7%改善したものの、計画値を大きく下回っている。また、医業収支比率も同様に前年度（88.1%）と比較して0.3%改善したものの、計画値を下回っている。
- ・病床利用率は、回復期において前年度（73.6%）を下回った以外は、改善がみられ、精神病床において計画値を達成した。
- ・患者1人1日当たり診療収入は、外来において計画値を達成した。これは、平成30年7月に「在宅療養支援病院」の認定を受けたことで、より質の高い医療提供が可能となったことによるもの。
- ・給与比率は、医業収益の減収に加え、救急外来業務の運営形態見直しなどによる給与費の増により、前年度（66.5%）と比較して1.2%の増となった。

医療機能に係る数値目標

主な数値目標	平成30年度			令和元年度
	計画値	実績値	達成状況	計画値
1日平均患者数（入院）	152.0人	145.3人	B	153.9人
1日平均患者数（外来）	489.2人	440.2人	B	491.0人
紹介率	28.0%	27.1%	B	29.0%
分娩件数	120件	83件	C	120件
外来患者満足度	85.0%	76.7%	B	85.0%
入院患者満足度	85.0%	89.2%	A	85.0%
在宅訪問診療回数	720回	1,044回	A	730回
在宅復帰率（回復期）	80.0%	92.7%	A	80.0%
救急車受入件数	550件	481件	B	550件
手術件数	800件	627件	C	800件
認定看護師数	12人	10人	B	12人

取組実績

- ・平均患者数は、入院患者数は増加（前年度142.3人）したが、外来患者数が大きく減少（前年度465.1人）した。
- ・紹介率は、前年度（24.7%）と比較して2.4%の増となった。紹介率を高めることは、入院患者数の増加につながるため、地域医療連携室を中心として紹介患者の確保を図っていく。
- ・在宅医療関連の数値は、軒並み伸びている。今後も伸び続けるとみられ、高齢者が安心して暮らせる地域づくりとして、在宅生活を支える医療体制の構築を図っていく。

◆評価委員の評価・指摘事項

- ・概ね役割は、果たされているが、小児科など地域住民の不安払拭の観点から、身近な診療科の充実を図っていただきたい。
- ・高齢化率の上昇に伴い、独居老人世帯の増加が見込まれる。医師の増員が前提となるが、在宅医療などの充実をお願いしたい。
- ・地域医療の役割を十分担っていると思う。今後も在宅医療を希望される方が増加すると思われるので、引き続き、安心して暮らせる地域づくりのためにその役割を担っていただきたい。
- ・依然として赤字基調が抜け出せない状況であるが、経常利益・純利益のいずれも赤字幅が減少した点は評価できる。
- ・今後の医療圏の人口動態と年齢構成、疾病構造などをもとに、必要とされる医療に対応していく戦略が必要と思われる。

◆数値目標達成に向けての具体的な取り組み

① 収入増加・確保対策（主なもの）

主な数値目標	平成30年度			令和元年度	備考
	計画値	実績値	達成状況	計画値	
入院外来収益の増収	33億3,222万円	31億151万円	B	33億7,421万円	入院収益増、外来収益減
病棟薬剤師配置による増収	1,400万円	1,394万円	B	1,400万円	前年度比20%増
管理栄養士配置による増収	300万円	305万円	A	300万円	栄養士の指導強化など
リハビリテーションの充実	1億8,650万円	1億7,908万円	B	2億900万円	前年度並みの実績
健診・ドック利用者の拡大（健診センター年間利用額）	8,000万円	9,241万円	A	8,000万円	土曜レディース健診、営業活動の強化など
未収金の徴収強化	200万円	138万円	C	200万円	専門員による徴収強化

② 経費削減・抑制対策（主なもの）

主な数値目標	平成30年度			令和元年度	備考
	計画値	実績値	達成状況	計画値	
SPD・共同購入による経費節減	対前年度比△400万円	対前年度比△480万円	A	対前年度比△101万円	SPD業者切り替えなどによる影響
時間外勤務手当の抑制	対前年度比△146万円	対前年度比2,283万円	C	対前年度比△192万円	救急外来の運営形態の見直しによる増
全体の薬品費の削減	対前年度比△50万円	対前年度比△132万円	A	対前年度比△50万円	ジェネリック医薬品採用率の増など
業務委託の内容および金額の見直し	対前年度比△200万円	対前年度比△320万円	A	対前年度比△200万円	医療機器の保守費用の見直しなど

当院では、「住民が安心して地域で暮らし続けるための医療の砦として私たちの病院が存在する」を基本理念に掲げ、中新川郡内で唯一の公立病院として、急性期機能を維持しつつ、在宅医療までの切れ目のない地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。

平成30年7月には、在宅療養者への医療提供体制の強化を図る目的で、「在宅療養支援病院」の認定を受けました。これにより、在宅で療養する医療が必要な方とご家族が不安なく毎日を過ごすことができるよう、24時間往診体制の提供を行っています。

常勤医師に関しては、外科医師2名が退職するなど、依然として医師不足が続いています。特に、外科や泌尿器科では、常勤医師の確保ができず、富山大学などからの非常勤医師の派遣によって外来枠のみを確保している状況です。医師不足の解消に向け、大学医局への依頼に加え、民間の医師紹介会社を活用するなど、引き続き鋭意取り組んでいます。

今後の当院の役割としては、地域の高齢者対策を含み、柔軟性を持たせた病床展開を目指した「地域包括ケア病床」の導入に取り組んでおり、今年度中の導入を目指しています。また、地域医療構想を踏まえ、訪問診療、訪問看護に代表される在宅医療の機能を強化し、地域包括ケアシステムへの取り組みを推進していきます。

【お問い合わせ】かみいち総合病院 ☎ 472-1212